

喜多流 第38回

中尊寺 薪能

平成27年8月14日(金)午後4時半始
中尊寺白山神社能舞台

祭儀
火入之儀

仕舞

白楽天
野守

佐々木宗生
友枝雄人

和泉流

狂言

悪太郎

野村萬齋

野村万作

後シテ・紀有常の娘の霊
前シテ・里女

佐々木多門

一八・一五

能
井筒

森 常好

高野和憲

終演予定 二〇・〇〇頃

会費 薪能奉賛券

S 一〇,〇〇〇円

A 八,〇〇〇円(当日九,〇〇〇円)

B 四,〇〇〇円(当日五,〇〇〇円)

学生 三,〇〇〇円

お申込み 中尊寺薪能の会 電話(〇一九二)四六一二一一〇

※雨天も催行(見所屋根一部架設) ※写真撮影・録音・録画不可

〈喜多流〉

中尊寺 薪能

たきぎのう

一六・三〇一

祭 儀 白山神社宮司

火入之儀 薪能奉行

仕舞

白楽天 はくらくてん
野守 のもり

佐々木 宗生
友枝 雄人

一七・〇〇一



写真・悪太郎 野村萬斎所演

和泉流

狂言

悪太郎 あくたろう

シテ・悪太郎

アド・僧

石田 幸雄
野村 萬斎
野村 万作

一七・二〇一

(休憩)

一八・一五一

能

井筒 いづつ

後シテ・紀有常の娘の霊
前シテ・里女

佐々木 多門

ワキ・旅僧

森 常好

アイ・樺本の里人

高野 和憲

大鼓 亀井 広忠

小鼓 亀井 俊一 笛 一噌 庸二

後見

塩津 哲生
中村 邦生

地謡

友枝 真也 狩野 了一
金子 敬一郎 出雲 康雅
内田 成信 栗谷 能夫
大島 輝久 長島 茂

附祝言

終演予定 二〇・〇〇頃

悪太郎

乱暴者の悪太郎は、酒を飲むことを非難する伯父を脅してやろうと、長刀を携えて出かけていく。ところが、そこでもさんざん酒を飲み、よい機嫌になると、帰る道すがら寝込んでしまう。後をつけてきた伯父は、道端に寝ている悪太郎を見つけて僧形にし、「今後は南無阿弥陀仏と名づける」と言い渡して去る。さて、目を覚ました悪太郎は……

井筒

諸国を旅する僧が大和国(奈良県)初瀬の在原寺を訪れて、在原業平と紀有常の娘とが住んでいた旧跡を弔う。そこへ若い里女が現れ、荒れ果てた古塚に水を手向ける。不審に思った僧が言葉かけると、女はこれこそが業平の墓であると教え、業平と紀有常の娘との恋物語を始める。二人は幼馴染の間柄で、井戸の水鏡に互いに並んで姿を映して遊んでいるうち、成人となつて恋を交わした。このため有常の娘を「筒井筒の女」とも言われるようになったと語り、やがて里女は井筒の陰に姿を消してしまふ。(中入)

夜が更けると、業平の形見の装束を身につけて女が僧の前にふたたび現れ、心を業平へと深く思い入れて舞を舞い始める。情念が高まり思わず覗き込んだ井筒の水。その姿に業平の面影を女は偲び、いつしか夜が明けて空が白んでくるとともに消え失せてゆく。

「伊勢物語」の二十三段目に典拠をとつて、世阿弥が夢幻能として恋の情を描いた名曲。舞台上置かれる井筒の作り物が、曲の象徴として美しく効果的に存在する。